

# 各地域での鳥獣被害対策の取組事例



令和3年4月  
佐賀県農林水産部生産者支援課

## はじめに

県内の野生鳥獣による農作物被害金額は、1億5千万円(令和元年度)にものぼっています。被害の内、全体の6割がイノシシ、1割がカモ、0.9割が中型哺乳類となっています。

県全体でみるとイノシシによる被害が最も大きくなっていますが、地域によっては、ニホンザルやカラス、ヒヨドリによる大きな被害も発生しており、地域や鳥獣種に応じた被害対策が必要となっています。

そのような中、県では、JA・市町等と連携し、各地域において鳥獣被害対策をより効果的かつ効率的に推進するため、対策する時の実証や重点指導を行う重点集落を定め、地域や農家の皆様自身が被害対策に取り組めるように指導を行ってきました。

今回、その重点集落における被害対策の取組事例を取りまとめましたので、皆さまの地域において、今後、ぜひご参考にしていいただければと思っています。



# 目次

- 1 「棚田を守るイノシシ対策」(多久市西多久町平古場集落) . . . . . P3 ~ 4
  
- 2 「自作囲い罾の設置と集落点検会の実施および中小箱罾の効果確認」(佐賀市富士町杉山集落) . . . . . P5 ~ 6
  
- 3 「電気柵管理省力化技術の導入」(みやき町高柳集落) . . . . . P7 ~ 8
  
- 4 「集落営農法人で取り組むイノシシ被害の軽減対策」(唐津市佐志) . . . P9 ~ 10
  
- 5 「集落ぐるみで取り組むイノシシ被害対策」(唐津市肥前町瓜ヶ坂集落) . P11 ~ 12
  
- 6 「集落点検と箱罾設置方法の見直しによる獣害対策」(伊万里市二里町中田集落) . . . . . P13 ~ 14
  
- 7 「総合的な被害防止対策のための集落点検と捕獲労力軽減への取組」(武雄市若木町御所(中若木)) . . . . . P15 ~ 16
  
- 8 「有害鳥獣捕獲班の設置および箱罾センサーを活用した捕獲実証」(鹿島市嘉瀬の浦地区) . . . . . P17 ~ 18

## 「棚田を守るイノシシ対策」

### 1 取組年度

平成 30 年度～令和元年度

### 2 地域・集落名

多久市西多久町平古場集落

### 3 関係機関の連携体制

- ・多久市：集落との調整、集落点検指導
- ・佐城農業改良普及センター：研修会の開催、集落点検指導（ドローン活用検討）、展示圃設置（クズ防除、開閉扉）



写真 1 平古場地域の棚田

### 4 被害の状況

平古場集落は平成 24～26 年、県内でも比較的早くワイヤーメッシュ（以下 WM）柵の設置に取り組んだ集落であったが、広範囲に設置された WM 柵が道路によって途切れていた。その結果、途切れた箇所からイノシシの侵入が見られ、WM 内部にさらに電気柵を設置しないといけない等、WM 柵の効果が最大限に発揮されていない状況にあった。また、難防除雑草であるクズが WM 柵を覆い隠してしまい、WM 柵の管理に支障が出ていた。

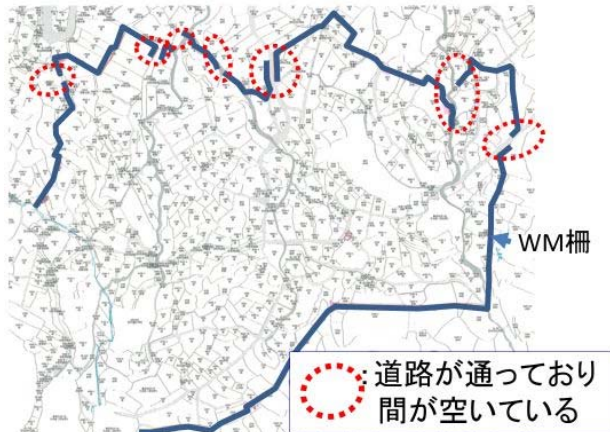


図 1 WM 柵設置状況



写真 2 内部から押された WM 柵

### 5 取り組み目的・課題

【目的】イノシシの侵入防止による被害軽減

【課題】

- (1) 侵入実態の把握
- (2) 難防除雑草であるクズ対策
- (3) 道路部分の WM 柵設置方法の検討



## 6 取り組んだ対策、成果・残された課題など

### 【対策・成果】

#### (1) 集落点検・補修

集落点検（写真3）の際に研修会を開催し、クズの防除方法や効果的な防護柵の張り方等の情報提供を行った。また、試験的に撮影用のドローンを用いて集落内を上空から撮影し、イノシシ被害の確認が出来ないかを検討した（写真4）。ドローンによる撮影は、水田内に侵入したイノシシの通り道が容易に確認可能で、確認にかかる移動時間の短縮が期待されたが、樹木に覆われている場所は確認ができない等の課題も見られた。



写真3 集落点検・補修の様子

#### (2) 除草剤を活用したクズ防除

集落内に展示圃を設置し、他地区でクズ対策に効果のあった除草剤を使用したところ、WM柵を覆っていたクズが完全に枯死し、効果を確認することができた（写真5）。



写真4 ドローンによる撮影写真

その後、効果を目にした集落の農家が自身で当該除草剤を使うようになり、取組が集落内に広がっている。

#### (3) 頑丈かつ開閉が容易な開口部の検討

近隣集落で設置されていた開閉扉を参考に、集落で自作の開閉扉を設置したところ好評で、今後設置箇所を増やしていくこととなった（写真6）。



写真5 処理後枯死したクズ

### 【残された課題】

WM柵内に住み着いたイノシシを捕獲する必要がある。

## 7 地域の方々の声

「困っていたクズの防除が成功し、WM柵の管理が楽になった」「今後も被害軽減に取り組み集落の柵田を守っていきたい」という声が聞かれた。



写真6 自作の開閉扉

## 8 担当者から一言

まとまりがあり、市と連携しながら自主的に点検・補修を実施されているモデル的な集落です。今後も集落の皆様の取組に期待します。

【執筆担当】  
佐城農業改良普及センター  
園芸担当

## 「自作囲い罾の設置と集落点検会の実施および中小箱罾の効果確認」

### 1 取組年度

令和元年度～令和2年度

### 2 地域・集落名

佐賀市富士町杉山集落

### 3 関係機関の連携体制

- ・佐賀市：情報提供、連絡調整
- ・佐城普及センター北部振興担当：展示圃設置、現地指導



写真1 杉山集落の水田

### 4 被害の状況

当集落は水稲単作または施設園芸を組み合わせた営農体型が主体となっている。ワイヤーメッシュ(以下WM)柵は集落全体で25,329mにわたっており、集落自体も谷に囲まれているため、水稲や園芸作物におけるイノシシ被害が顕著化している。

### 5 取り組み目的・課題

イノシシの被害が顕著化していたため(写真2、3)農家自らが囲い罾の自作に取り組むこととなった。普及センターは作成に当たって技術指導や情報提供を行った。

また、集落が広く、WM柵等の管理は個人管理となっているため、集落全体の被害状況をつかむことができなかった。そのため、集落点検会を実施し、共同活動のメリットや重点的に取り組むべき場所を確認することとなった。

さらに、アライグマ被害も集落内で確認されていたことから、中小動物用箱罾の効果確認展示圃を設置することとなった。



写真2 WM柵内に侵入しているイノシシ



写真3 イノシシに荒らされた畦畔



## 6 取り組んだ対策、成果・残された課題など

### (1) 自作囲い罠の設置・改良

令和元年度に農家自身が県防除センターや専門家の助言を受け自作囲い罠を設置した。令和2年度は、前年度見つかった囲い罠の課題に対して改良を加えたが、捕獲実績は0頭だった(写真4)。

自作だと囲い罠は安価に作成でき、設置当初は農家も期待をしていたが、設置後の移動や止め刺し時の保定が困難であること等、デメリットも多いことがわかり、普及性が低いことが分かった。

### (2) 集落点検会および集落全体研修会の実施

個人でWM柵等の管理を行っており、他人のWM柵の破損等の状況が把握できないために集落全体の被害につながっていたことを受け、集落点検会を実施した。点検後は航空写真に被害状況を書き込み、公民館に掲示することで集落全体への共有を図った(写真5)。また、被害対策の先進地から講師を招聘し、集落全体で研修会を行い、集落全体のスキルアップを図ることができた。今後も集落ぐるみの共同作業で被害対策を実施するための意識醸成が必要である(写真6)。

### (3) 中小箱罠の効果確認

他の個体に罠の仕組みを学習させない中小動物用箱罠の展示園を設置し、効果を検証したが、実施期間が短く、サンプル数が少なかったため効果の判定にまでは至らなかった。



写真4 改良した囲い罠



写真5 集落マップの作製



写真6 全体研修会の様子

## 7 地域の方々の声

- ・集落点検で集落全体の被害状況を俯瞰することができた。
- ・先進地農家の言葉は説得力があり、勉強になった。現地視察も行いたい。

## 8 担当者から一言

杉山集落は活発な集落活動をされており、他集落への波及効果が高い集落です。この取り組みをさらに充実させ、他集落に波及するよう、今後も支援に努めます。

【 執筆担当 】  
佐城農業改良普及センター  
北部振興担当

## 「電気柵管理省力化技術の導入」

### 1 取組年度

平成30年度～令和2年度

### 2 地域・集落名

三養基郡みやき町・高柳集落

### 3 関係機関の連携体制

- ・みやき町役場：防護柵設置時の施策、事業実施の支援、有害捕獲対応
- ・JAさが三神エリアみやき事業所：研修会の参加呼びかけ、情報共有
- ・東部農林事務所：施策、事業の推進
- ・三神農業改良普及センター：技術支援、研修会実施

### 4 被害の状況

イノシシが地面を掘り返し、畦畔が崩れることが問題になっていた(確認箇所：写真1×印部分)。水稻で食害も確認された(撮影箇所：写真1 印部分)。



写真1 集落地図



写真2 被害圃場(水稻・イノシシ)



写真3 食害の様子(水稻・イノシシ)

### 5 取り組み目的・課題

当集落におけるイノシシ対策は電気柵が中心であったが、管理に係る労力負担が大きく、対策を実施できていない状況であった。また、集落内で被害を受けている場所が限られており、生産者によって鳥獣害対策の意識に温度差があるように見受けられた。

そこで、電気柵管理の省力化技術を用いた展示圃を設置し、波及を図った。さらに集落全体への研修会を通して、鳥獣害対策の意識付けを行うこととした。



## 6 取り組んだ対策、成果・残された課題など

### 【取り組んだ対策】

令和元年度は防草シートと電気柵を組み合わせた展示圃を設置した。生産者や関係機関とともに設置作業を行うことで、正しい設置方法の波及を図った（写真4）。令和2年度はコスト低減と生産者の選択肢を増やすことを目的に、除草剤を組み合わせた展示圃を設置した。研修会では展示圃の成果（表1）と併せて、イノシシの活動域が広がっている様子を撮影したのを見せ、集落全体での対策の必要性を示した。



写真4 展示圃設置の様子

コスト 幅0.6m・長さ100mあたり

	ザクサ液剤	ダイロンゾル	合計
散布	200倍	500倍	
1回目	117円	66円	183円
2回目	117円	-	117円
合計	234円	66円	300円

	バスタ液剤	ダイロンゾル	合計
散布	200倍	500倍	
1回目	118円	66円	184円
2回目	118円	-	118円
合計	236円	66円	302円

防草シート	
1年あたり	3,425円

💡  
1年あたり  
およそ  
3,125円の差

※メーカー価格。いずれも散布労賃・燃料代等は含まない。

表1 展示圃コスト比較表

### 【成果】

展示圃設置箇所での被害は確認されなくなった。電気柵設置圃場が増え、生産者自ら考え水路に柵を設置するようになった様子（写真5）から、鳥獣害対策に対する意識の変化が見られた。



写真5 水路に設置された柵

### 【残された課題】

今後は活動を周辺環境改善や捕獲につなげ、効果を高める必要がある。また、高齢化が進んでいるため、侵入防止対策をさらに省力化する必要がある。

## 7 地域の方々の声

防草シートについては「張っているところは草の管理がだいぶ楽になった」との感想が聞かれ、除草剤についても「稲の時期は除草剤も取り入れてみたい」と前向きな声が聞かれた。

## 8 担当者から一言

引き続き侵入防止対策に努めていただき、集落ぐるみでの活動も実現していきたいです。

【執筆担当】  
三神農業改良普及センター  
水田農業・畜産担当

## 「集落営農法人で取り組むイノシシ被害の軽減対策」

### 1 取組年度

平成 30 年度～令和 2 年度

### 2 地域・集落名

唐津市佐志

### 3 関係機関の連携体制

- ・唐津市役所：侵入防止対策（電気柵設置）支援
- ・東松浦農業改良普及センター：集落環境診断・展示圃設置支援、研修会開催



写真1 水稻でのヌタ場被害

### 4 被害の状況

唐津市佐志地区は、良質米の生産とコスト削減を図るため、共同利用機械の整備を行い、法人組織に農地が集約されてきている。しかし、地区内の中山間地域を中心にイノシシ被害が年々増加しており（写真1）、特に地区内中山間地域を含む唐津西部・上場地区では平成26年度以降再び被害が拡大している（図1）。これまでの個人ごとの管理ではイノシシの侵入防止対策が徹底できずにいた。

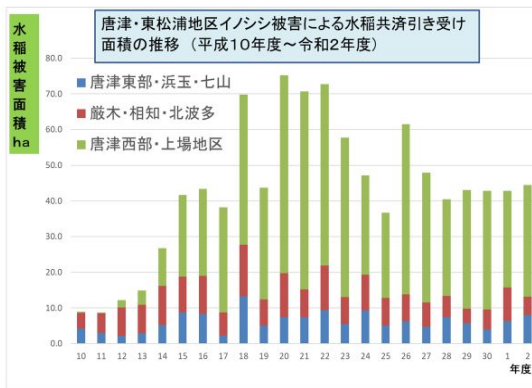


図1 管内のイノシシ被害面積の推移

電気柵設置の状況 (R1) ⇨ 矢印は足跡の痕跡



写真2 集落点検マップ

### 5 取り組み目的・課題

【目的】イノシシによる侵入を防止し農業被害を減らすこと

【課題】

- (1) 集落環境点検による集落点検マップの作成
- (2) イノシシの侵入防止対策の実施
- (3) 集落環境の改善



6 取り組んだ対策、成果・残された課題など  
集落役員による巡回調査（写真3）やドローンを活用して上空からの確認（写真4）による集落環境点検により、イノシシによる被害状況や侵入経路を地図に落とし集落点検マップを作成した（写真2）。点検の結果、平坦部では山際や茂みに近い圃場で被害が多いことや、中山間地域では全域で被害が見られることを集落構成員全員で共有することができ、集落ぐるみでの取組強化に結び付けることができた。



写真3 集落環境点検の様子

被害が著しい地域では実証区域を設定して電気柵によるイノシシ侵入防止対策の実証を行った。電気柵の導入の際は研修会を行い（写真5）、電気柵の適正な使用方法や設置後の管理について指導を行った結果、イノシシ侵入による被害を完全に防止することができた。

中山間地域での電気柵設置後の管理では、急斜面で草刈りが重労働となるため、電気柵管理の省力化のため畦畔除草剤による低コストで有効な方法を検討した結果、急斜面では「グラスショート」と「ケイピンエース」を用いて難防除雑草のクズを除去し、効果を確認できた。



写真4 ドローンによる集落点検



写真5 イノシシ侵入防止対策研修

## 7 地域の方々の声

「集落ぐるみで被害対策に取り組むことで、個人で実施するよりも効率的に管理ができ、侵入防止効果が実感できた」との声があがった。

## 8 担当者から一言

佐志地区では農事組合法人メンバーが中心となり、イノシシの侵入防止対策や集落環境点検に積極的に取り組まれました。他の集落営農法人でも組織ぐるみで被害対策に取り組まれるよう、波及を図りたいと思います。

### 【 執筆担当 】

東松浦農業改良普及センター  
水田農業・畜産担当



## 「集落ぐるみで取り組むイノシシ被害対策」

- 1 取組年度  
平成30年度～令和2年度

- 2 地域・集落名  
唐津市肥前町瓜ヶ坂集落



写真1 瓜ヶ坂集落の棚田

- 3 関係機関の連携体制
- ・唐津市役所肥前市民センター：各種連絡調整
  - ・東松浦農業改良普及センター：被害マップ作成支援、ワークショップ・研修会の開催

- 4 被害の状況
- 瓜ヶ坂集落の水田は棚田であり、海岸に沿って細長く带状に連なる地形をしている（写真1）。耕作放棄地となった圃場はイノシシの棲家になっている。ワイヤーメッシュ柵の設置による侵入防止対策、箱罠の設置による個体数管理を行っているが、依然被害が多発している（写真2）。



写真2 イノシシによる被害（水稻）

- 5 取り組み目的・課題
- 【目的】集落ぐるみの獣害対策による被害の低減
- 【課題】地域住民への獣類に対する知識の普及と意識の向上

- 6 取り組んだ対策、成果・残された課題など

【対策】

- (1)ワークショップを行い、獣害を抑えるための課題を洗い出した(写真3)。
- (2)集落構成員全員を対象に、イノシシ被害対策研修会を開催した(写真4)。
- (3)年2回、集落ぐるみでワイヤーメッシュ柵の点検を行った(写真5)。
- (4)webGISを活用して、イノシシ被害の状況を地図上に「見える化」した(写真6)。
- (5)メッシュの幅が狭い箱罠を自作して捕獲強化に取り組んだ。



写真3 ワークショップの様子



写真4 イノシシ被害対策研修会



写真5 ワイヤメッシュ柵の点検



写真6 イノシシ被害状況の「見える化」

### 【成果】

ワークショップや研修会を通して集落構成員が獣害対策について共通認識を持つことができた。ワイヤメッシュ柵の点検は、個人で実施するよりも効率的に取り組むことができた。また、イノシシ被害の「見える化」をすることで、重点的に被害対策に取り組む箇所が視覚的に明らかとなり、集落ぐるみで被害対策に優先順位を付けて取り組む機運が高まった。

### 【残された課題】

被害状況、罠や捕獲の状況等をさらに集落で情報共有し、集落ぐるみで継続的に獣害対策に取り組む必要がある。

## 7 地域の方々の声

イノシシは学習能力が高く侵入しやすいところを探して何度も侵入しようとしてくる。また最近ではイノシシに加えてアライグマによる被害も増えている。暗視カメラを使って実態調査を行いながら、今後も集落ぐるみで対策に取り組んでいきたい。

## 8 担当者から一言

集落ぐるみの取り組みが管内に広がるよう今後も対策の普及に努めます。

### 【執筆担当】

東松浦農業改良普及センター  
上場振興担当

## 「集落点検と箱罾設置方法の見直しによる獣害対策」

- 1 取組年度  
平成 29 年度～令和元年度
- 2 地域・集落名  
伊万里市二里町中田集落
- 3 関係機関の連携体制
  - ・伊万里市：集落環境点検実施、研修会の開催
  - ・JA 伊万里：情報提供
  - ・西松浦農業改良普及センター：集落環境点検実施、研修会の開催、  
暗視カメラによる箱罾設置状況等の確認
- 4 被害の状況  
中田集落は中山間に位置し、谷に沿って集落を囲うようにワイヤーメッシュ柵が設置されていたが、水稻や大豆へのイノシシ被害が多く発生していた。
- 5 取り組み目的・課題  
既存のワイヤーメッシュ柵を活かした被害防止対策に取り組んだ。また、箱罾を設置しても捕獲が思うようにいかないことが多かったため、箱罾の設置状況を見直し、捕獲圧強化に取り組んだ。
- 6 取り組んだ対策、成果・残された課題など
  - (1) 集落環境点検による管理改善点の確認  
ワイヤーメッシュ柵の周辺や内部のヤブ地を解消し、潜み場をなくすことでワイヤーメッシュ柵の効果アップを図った。また、集落点検を強化し、年 1 回以上の点検・補修を実施することとした。その結果、ワイヤーメッシュ柵への接近はみられたが侵入は防止できていることが確認され、集落でも「ワイヤーメッシュ柵周辺は見晴らし良く(緩衝地帯)」「年に 1～2 回は点検・修繕」を行うなど、設置後の管理が重要であることが認識された。
  - (2) 捕獲圧強化  
中田集落では捕獲班が設置され、捕獲従事者の負担軽減と効率的な罾設置が可能となっている。  
箱罾の状況を暗視カメラで確認すると、イノシシが来る前に中型哺乳類がエサを食い尽くしていることが発覚した。そこで、中型哺乳類用の箱罾を設置し



たところ、アライグマ等が多数捕獲され、その後はイノシシの捕獲頭数も増加した。箱罾は、設置場所、設置方法の改善だけでなく、設置後の状況を確認して対応することで効率的な捕獲につなげることができることが分かった。



写真 潜み場となっているヤブ地を解消

## 7 地域の方々の声

罾を設置する、ワイヤーメッシュ柵を設置するなど、設置だけで終わっており、その後の見直しを行っていなかった。集落点検を実施したり暗視カメラを用いて状況を確認したことで、被害箇所の状況や改善点がみつかった。今後も、ワイヤーメッシュ柵の点検や罾の状況確認などを定期的に行うことで、効果的な対策を実施し、被害の軽減につなげていきたい。

## 8 担当者から一言

暗視カメラを活用し、罾やワイヤーメッシュ柵の設置後の状況を集落の皆さんに把握してもらうことで、効果的な対策に結び付けることができたと考えています。また、罾の設置についての現地研修会では、設置方法が我流となっている農家が多いこともわかり、基本を見直してもらうきっかけとなったと思います。今後も、鳥獣被害対策のための集落活動を定期的に見直してもらいながら、効率的な被害軽減を進めていきたいと考えています。

【 執筆担当 】  
西松浦農業改良普及センター  
園芸担当

## 「総合的な被害防止対策のための集落点検と捕獲労力軽減への取組」

### 1 取組年度

平成 30 年度～令和 2 年度

### 2 地域・集落名

武雄市若木町御所（中若木）

### 3 関係機関の連携体制

- ・武雄市：捕獲班設置支援
- ・JA さが武雄杵島営農経済センター：研修会開催
- ・杵藤農林事務所：捕獲班設置支援
- ・杵島農業改良普及センター：集落環境診断支援、  
ICT 活用した捕獲の省力化機器の実証

### 4 被害の状況

武雄市若木町の御所地区は平成 3 年からイノシシが出没し始め農作物被害が拡大してきた。平成 8 年ごろから捕獲に取り組んだり、ワイヤーメッシュ（以下 WM）柵や電気柵を設置してきたりと被害防止対策に取り組んできたが、WM 柵の設置後はイノシシに破壊された箇所を逐一、連絡を取り合いながら補修を実施してきたが、補改修をする人に負担がかかりやすく、全員で共有する機会がなかった。捕獲についても特定の人に労力が集中しており、負担がかかっていた。

### 5 取り組み目的・課題

【目的】集落ぐるみの鳥獣対策実施体制の構築

【課題】

- (1) 集落環境診断による情報の共有化(被害マップ作製)
- (2) 捕獲班編成による一部捕獲従事者への負担軽減
- (3) ICT 機器を活用した捕獲作業の省力化



写真 1 集落診断で情報を出し合う

### 6 取り組んだ対策、成果・残された課題など

- (1) 年に 1 回開催している WM 点検会の内容を拡充し、集落構成員全員でイノシシの農作物被害状況、WM 柵の破壊箇所、イノシシの餌となる放任果樹などの情報を共有するための集落環境診断を実施し、被害マップを作成した。被害マップは公民館に掲示することで、地域



写真 2 集落みんなで共有化

内で被害状況を共有した結果、優先順位を付けて WM の補修に取り組まれる等、集落全体でイノシシ被害を防ごうという意識が大いに高まった。今後もこの取り組みを継続して実施していく必要がある。

- (2) 狩猟免許所持者 1 名と狩猟免許を所持しない者 2 名で捕獲班を結成し、捕獲従事者の負担軽減に取り組んだ。餌まきや捕獲状況の確認などの作業が軽減されたことから捕獲従事者の負担軽減につながり、管理もより徹底されたことから捕獲頭数が増加した。今後はこの取り組みをきっかけに捕獲従事者の確保育成に転じるようにしていく必要がある。



写真3 WM 柵の補修作業



写真4 餌の見回りの様子

- (3) ICT 機器を利用した捕獲処理の負担軽減に取り組んだ。箱罠の開閉および捕獲が成功しているかを確認できるように ICT 機器を箱罠に設置して、労力の軽減に取り組んだ。箱罠の中にイノシシがいるかがわかるので心構えや止めさしの準備がしやすくなるということで好評だった。今後、ICT 機器の通信範囲が狭いため、利用しやすいように改良をしていく必要がある。



写真5 設置の様子

## 7 地域の方々の声

鳥獣対策が一部の人間の負担にならないような取り組みができて、地区での意識が変わってきた。継続的にいろんな取り組みを実施していきたい。

## 8 担当者から一言

当地区は非常に団結力が強く、有害鳥獣に対しても非常に熱心でしたので多くの取組をすすめることができました。この取り組みが県内各地に広がるように対策支援に今後とも努めていきます。

### 【 執筆担当 】

杵島農業改良普及センター  
水田農業・畜産担当



## 「有害鳥獣捕獲班の設置および箱罨センサーを活用した捕獲実証」

### 1 取組年度

平成 30 年度～令和 2 年度

### 2 地域・集落名

鹿島市 嘉瀬の浦地区

### 3 関係機関の連携体制

藤津農業改良普及センター：捕獲班設置推進、箱罨設置指導

鹿島市：捕獲班設置支援

JA さが：研修会の開催

### 4 被害の状況

嘉瀬の浦地区は有明海に面した山麓部にあり、ミカンを中心とした樹園地が広がっている。取り組みを開始した平成 30 年当時、集落で効果的な獣害対策が実施されている園地は少なく、被害が増加していた。無人カメラで調査した結果、イノシシが一番多く、次いでアライグマが出没していることが確認できた。

### 5 取り組み目的・課題

当地区での有害鳥獣の捕獲は、箱罨のエサの確認や罨の見回り等、狩猟免許を持った猟友会員が全て対応しており、負担が大きくなっていた。また、箱罨の近くまで鳥獣が来ている痕跡は見られたものの、捕獲までには至らなかった。そこで、集落全体での捕獲体制の構築および捕獲技術の向上について取り組みを行った。

### 6 取り組んだ対策、成果・残された課題など

#### (1) 有害鳥獣捕獲班設置の検討

集落全体で鳥獣捕獲に取り組むための意識の醸成および捕獲班の設置に取り組んだ。

まず、集落座談会の際に、集落全体での獣害対策の先進事例について研修を行った。その後、捕獲班設置事業を紹介し、設置について打診を行ったところ、猟友会員を中心メンバーとして捕獲班を設置し、活動を開始した。

捕獲班の設置により、罨の巡回等、猟友会員に係る負担が軽減され、集落で

捕獲班の設置により、罾の巡回等、猟友会員に係る負担が軽減され、集落で協力しながら鳥獣被害対策をする意識が高まった。また、リーダーから班員へ鳥獣捕獲技術の継承が行われるようになった。



写真1 先進事例の紹介



写真2 捕獲班の活動の様子

## (2) 箱罾センサーを活用した鳥獣捕獲実証

ICT 技術を活用した箱罾センサーについて、鳥獣捕獲のための実証調査に取り組んだ。

当装置は赤外線センサーにより、獲物の侵入を感知、罾が作動する仕組みで、センサーの感知深度を変更することにより、大きさの違う獲物を選択して捕獲することができる。

令和元年7月から重点集落内にセンサー付きの箱罾を1台設置して実証を開始した。令和2年度にはさらに1台追加して実証した結果、アライグマ、アナグマ合わせて15頭の捕獲に成功した。

今回の実証では、アライグマ等中型哺乳類の捕獲には成功したが、イノシシの捕獲ができず、今後はイノシシ捕獲についても取り組んでいく必要がある。



写真3 センサーを利用した箱罾でのアナグマの捕獲

## 7 地域の方々の声

有害鳥獣に関する研修会などを通して、捕獲活動も含めて集落全体の鳥獣対策への理解が深まった。また、捕獲班の設置は地域の若手が捕獲活動に取り組むきっかけとなったので、今後も活動を発展させたい。

## 8 担当者から一言

嘉瀬の浦集落では集落全体で有害鳥獣の侵入対策や、捕獲班の設置による効率的な捕獲にも取り組まれるようになりました。今後も継続して対策に取り組んでもらいたいと思います。

【 執筆担当 】  
藤津農業改良普及センター  
水田農業・畜産担当

## 【お問い合わせ先】

佐賀県農林水産部生産者支援課

〒840-8570 佐賀市城内 1-1-59 TEL : 0952-25-7113 FAX : 0952-25-7271

○佐賀中部農林事務所 佐城農業改良普及センター

〒840-2205 佐賀市川副町南里 1088 TEL : 0952-45-8888 FAX : 0952-45-8880

○佐賀中部農林事務所 佐城農業改良普及センター北部振興担当

〒842-0301 佐賀市三瀬村三瀬 2970 TEL : 0952-56-2311 FAX : 0952-56-2846

○東部農林事務所 三神農業改良普及センター

〒849-0123 上峰町坊所 112-1 TEL : 0952-52-1231 FAX : 0952-52-1478

○唐津農林事務所 東松浦農業改良普及センター

〒847-0861 唐津市二夕子 3-1-5 TEL : 0955-73-1121 FAX : 0955-74-7975

○唐津農林事務所 東松浦農業改良普及センター上場振興担当

〒847-0326 唐津市鎮西町早田 1471-6 TEL : 0955-82-2711 FAX : 0955-82-1911

○伊万里農林事務所 西松浦農業改良普及センター

〒848-0041 伊万里市新天町 122-4 TEL : 0955-23-5128 FAX : 0955-23-5138

○杵藤農林事務所 杵島農業改良普及センター

〒849-1111 白石町東郷 2546-2 TEL : 0952-84-3625 FAX : 0952-84-6425

○杵藤農林事務所 藤津農業改良普及センター

〒849-1312 鹿島市納富分 2643-1 TEL : 0954-62-5221 FAX : 0954-62-4181

○農業技術防除センター

〒840-2205 佐賀市川副町南里 1088 TEL : 0952-45-5297 FAX : 0952-45-5085

本事例は、以下のURLからも御覧いただけます。  
<https://www.pref.saga.lg.jp/kiji00359204/index.html>